

ティーチング・ステートメント

所属 薬学部薬学科
名前 中田 章史
作成日 2021年3月17日

【責任】

基礎薬学部門生命科学分野に所属し、専門科目である生命科学を中心とした教育・研究活動を行っている。

主な教育活動は生物系関連科目(生物学・分子生物学・遺伝子工学・薬学基礎実習・総合演習など)を担当している。さらに、卒業研究生の研究指導、ならびにクラス担任として活動している。

【理念】

薬剤師は、患者の症状や症状における薬物が適切かを判断することや、日々更新される医薬品や医療の方針などの情報収集をする能力が求められる。

加えて、ロボットの導入、オンライン化、非薬剤師の参入など、従来の薬剤師業務の形態が変化と同時に、高齢化や過疎化における新たな薬剤師業務の必要性が求められることが予想される。

このような状況を考えると、学生には業務の効率化や新体制においても生き残ることができ、社会に必要とされる業務・役割を自らで創出していく能力を持つことが重要である。私が担当する生命科学の領域は、薬学を学ぶ上での基礎であると同時に日進月歩で発展している。そのため、学生が将来活躍するためにも医学・薬学の新しい情報・知識・技術が得られるような講義・卒業研究を提案して行きたい。

【方針・方法】

上記の理念を実現するために、講義および卒業研究において、以下の方針・方法を用いて教育活動を行っている。

方針1 学習しやすい環境を整える

- ・学生が自学(予習・復習)に取り組みやすくするために、特別な教材を用意するのではなく教科書を中心とした学習形態にしている。
- ・学生からの質問には丁寧に答えている。
- ・Moodle上に演習問題を設置し、知識の定着化を図っている。
- ・全講義終了後に講義の動画を公開し、もう一度学習し直せる環境を提供している。

方針2 知的好奇心を刺激する。

- ・他の科目とのつながりについても講義の中で取り上げている。
- ・生命科学に関する内容がニュースで取り扱われたら、講義、卒業研究で取り込むようにしている。
- ・公共データベースを活用した課題を行うことで、学生自身が興味のある事柄が、講義内容や他の科目に関連していることを意識させている。

方針3 考える力を養う

- ・卒業研究は、学生自身が主体的に考えて実験、調査することを重点的に考えている。
- ・卒業研究のテーマが、これまで4年生ままでに学習した講義のどの項目に関連しているのかを意識できるように指導している。
- ・卒業研究では、実験結果と参考文献から、自分の考えを述べられるように指導している。

【評価・成果】

- ・授業アンケート等の結果から、講義内容に関する興味が向上していることがわかった。
- ・学生のテスト成績が向上した。
- ・掲載している演習問題について、一定数のアクセスがある。

【目標】

長期目標：

- ・担当する領域について、薬剤師国家試験での正答率を向上させる。
- ・社会の要請に対応できる能力を身につけた薬剤師の養成を目指す。

短期目標：

- ・学生と実施する卒業研究の成果を国内外に発信する。